

大磯町公共施設等第 1 期個別施設計画改訂(案)についてのご意見及び
町の考え方について

番号	項目	意見
1	地域集会施設	<p>ここ数年身近での目立った動きは家族葬、子供会の解散、PTA の自由参加で、それらをつなげて考えるに近い将来 ” 住民の孤立化 ” が大きな社会問題となることを予感させる。” 安全、安心のまちづくり ” がいわれ、福祉や防災の集まりで自助、共助、公助のバランスが求められる時代にあつて、共助システムの見直しはこれからの地方行政にとって緊急の課題であろう。共助システムに求められるのは以下のものだが、これらは行政システムとは異なる分野である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉においては少子高齢化社会にあつて住民相互の見守り、助け合い ・防災、災害発生直後における住民相互の助け合い、避難所の円滑な運営 ・住民相互の防犯意識 ・伝統文化の継承 ・住民相互の子供の見守りと健全な育成への援助 ・自然な敬老精神、独居世帯への配慮 などなど <p>上記共助分野において、これからの時代は意欲と行動力のあるボランティア団体が重要な役割を果たすことになるだろうが、既存の町内会・自治会の役割もますます重要になると思われる。今回、大磯町公共施設等総合管理計画改訂(案)及び大磯町公共施設等第 1 期個別施設計画改訂(案)において地区会館の地域移管に伴い、認可地縁団体登録を求められているが、経理面が優先され、福祉・防災・住民自治の面を含めた総合的な視野が欠落しているように思えてならない。茶屋町では十数年前に法人化（当時は NPO 法人であったが）を検討したが、町内会組織が望ましいとの結論に至った。理由としては権利義務や個人のプライバシーは尊重されなくてはならないが、住民福祉との良識あるバランスもまた重要だと考えたからである。町内会には全員入らなくてはならないとか、個人のプライバシーにここまでは立ち入ることが許されるという ” 空気 ” のようなものがあつて、それは先人の残してくれた生活の知恵だと判断したからである。行政の経理面で地域会館の維持が将来困難だから認可地縁団体にというのではあまりにも策が乏しく、慎重に総合的に検討していただきたい。</p>
町の考え方		
<p>公共施設の再編については、今後、生産年齢人口の減少などによる税収の減少や、高齢化による扶助費の増大などにより行政運営が一層厳しさを増す中で、将来世代の負担をこれ以上増やさず適切な行政サービスを提供し続けるため、施設の更新問題等を踏まえ公共施設等の在り方や見直しを進めるものです。また、町が所有している地域集会施設（20 棟）は、公共建築物全体の約 22% となり、耐震化は図られているものの一部の施設は老朽化が進み、今後、改修や建替に係る財源をすべて確保することは困難な状況であることから、地域の活動拠点として存続していくため、地域集会施設の今後の方向性として取組方針を財産移管又は統</p>		

		<p>廃合としています。そのため、自治会に財産の移管を行う場合には、登記などの財産管理等に伴い自治会が認可地縁団体として法人登録することが必要となり、また、統廃合については、大規模な改修や建替えの際には、隣接する自治会との統廃合を検討していただくもので、地区で所有する地域集会施設もあることから、自治会への移管等に伴う課題については、引き続き区長連絡協議会と共有しながら、自治会活動が今後も継続して行えるように慎重に協議してまいります。</p>
番号	項目	意見
2	<p>その他施設 [産業観光施設]</p>	<p>城山公園前の農産物直売所の存続のお願い この度城山公園前の農産物直売所が閉鎖されると聞きました。私は大磯に来て以来 20 年以上この直売所を利用しています。早朝に列を作っている仲間のほとんどは長年の利用者です。地元の人その他、通りがかったハイキングの人も立ち寄っています。今後は直売所は大磯コネクトに集約して、生産者には大磯コネクトに生産物を出して欲しいとのことだそうです。生産者も消費者も大磯コネクトまで行くのは不便だったり、足がないということで無理だったりします。農産物の購入は毎日の生活に直結しています。販売場所を集約して遠方まで駐車場代を払って車で買いに行かせるのは、高齢化が進む利用者を見捨てた判断ではないでしょうか？むしろ、公私を問わずこのような直売所を各地域に作ることを促進することこそ、町民の食生活を豊かにすることに繋がると思います。私はこのような直売所があり、生産者の顔が見え、生産者と話しながら野菜や果物、花などを買うことができる場所があることこそ、大磯生活の良さだと思っています。この直売所のおかげで、採りたての美味しいトマトやとうもろこしをはじめ、真竹やタラの芽、ごごみ、アシタバ、などスーパーでは手に入らない食材とも出会い、季節の移り変わりを感じながら食生活を楽しんできました。いつも顔を合わせる生産者さんやお客さんどうしの語らいで、気づかないうちに小さなコミュニティーが出来上がっていました。大型の施設に集約してしまうのではなく、町に長年続いているこのような施設を守り、さらにこのような施設を増やしていくことこそが大磯らしさであり、大磯暮らしを豊かにし、大磯の魅力を移住者に伝える方法の一つにもなると思います。どうかこの直売所を閉鎖しないよう、お願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">町の考え方</p> <p>公共施設の再編については、今後、生産年齢人口の減少などによる税収の減少や、高齢化による扶助費の増大などにより行政運営が一層厳しさを増す中で、将来世代の負担をこれ以上増やさず適切な行政サービスを提供し続けるため、施設の更新問題等を踏まえ公共施設等の在り方や見直しを進めるものです。農産物直売所は、平成 4 年に整備され多くの農業従事者が組合を設置し、共同で運営が行われてきました。現在では、J A 直売所をはじめ農家の庭先や、商店などで地場産の野菜などが販売されるようになっていきます。城山公園前の直売所については、町が維持管理を行う公共施設としては、施設の老朽化を踏まえ今後の更新等を考慮す</p>

		ると、行政サービスとしての設置の必要性は低いと判断し、施設の廃止について直売所を運営する組合と協議を進めています。なお、町内農産物の販売機会の提供については、多くの農業者が利用できるよう大磯港賑わい創出施設をはじめ販路確保に向けて調整を行ってまいります。
番号	項目	意見
3	その他施設 [産業観光施設]	<p>農産物直売所の廃止について 現在、周辺の住民は徒歩・自転車等で直売所を訪れている。また、開店前には10名程度の人々が列をなしていることもある。この直売所がなくなると、周辺のスーパー（ヤオマサ）等での買い物となり、直売所の新鮮な物を安く買えるメリットはなくなる。生産者に大磯港賑わい創出施設への出品を勧めるようだが、生産者にはメリットがあるが、現在直売所を利用している住民にとっては大磯港は遠く便利さがなくなる。⇒直売所は存続し、生産者は直売所と賑わい創出施設への両方への出品をしてもらえると住民にとって良いと思います。</p> <p style="text-align: center;">町の考え方</p> <p>公共施設の再編については、今後、生産年齢人口の減少などによる税収の減少や、高齢化による扶助費の増大などにより行政運営が一層厳しさを増す中で、将来世代の負担をこれ以上増やさず適切な行政サービスを提供し続けるため、施設の更新問題等を踏まえ公共施設等の在り方や見直しを進めるものです。農産物直売所は、平成4年に整備され多くの農業従事者が組合を設置し、共同で運営が行われてきました。現在では、JA直売所をはじめ農家の庭先や、商店などで地場産の野菜などが販売されるようになっていきます。城山公園前の直売所については、町が維持管理を行う公共施設としては、施設の老朽化を踏まえ今後の更新等を考慮すると、行政サービスとしての設置の必要性は低いと判断し、施設の廃止について直売所を運営する組合と協議を進めています。なお、町内農産物の販売機会の提供については、多くの農業者が利用できるよう大磯港賑わい創出施設をはじめ販路確保に向けて調整を行ってまいります。</p>
番号	項目	意見
4	その他施設 [産業観光施設]	<p>農産物直売所の廃止に反対します。 城山公園前の直売所は週3回の開店と共に多くの利用者が訪れ、大変賑わっている施設です。主に近隣住民が新鮮な野菜と花を求めてやって来ます。中には平塚から自転車で来られる方もいます。どなたもこの直売所の採れたて野菜や花の大ファンです。これだけのニーズがあるのに、なぜ町は一方的に廃止を求めるのでしょうか。利用者には徒歩で訪れる高齢者が数多くいます。車を利用しない高齢者にとって、直売所は近くにスーパーがない地域における貴重な買い物スポットの役割も果たしています。町はオオイソコネクトへの移管を想定しているようですが、「徒歩でオオイソコネクトまで行くのは遠くて無理」という高齢者の声を聞きます。またオオイソコネクトへ車で行くにしても有料駐車場を利用する必要があります。数百円の野菜を買うために310円の</p>

		<p>駐車料金を払わねばなりません。私は十数年前に都内から大磯町へ転入してきましたが、大磯に暮らしてよかったと思えたきっかけが城山公園前の直売所でした。フレッシュな野菜や果物を生産者から直接購入できるだけでなく、山菜や珍しい野菜の調理法、花の名前や栽培のコツをじかに教えていただけるステキな交流の場にすっかり魅せられました。おかげで季節の食材の楽しみ方を知り、地元の野菜と果物と花に囲まれた大磯暮らしを満喫しています。直売所との出合いが大磯暮らしの醍醐味を教えてくださいました。直売所は近隣住民の大切なコミュニティの場です。どうか奪わないでください。人々の触れ合いや交流の重要性が見直されている昨今、直売所の廃止は時代に逆行する判断だと思います。むしろ数を増やすことが求められているのではないのでしょうか。旧吉田茂邸、明治記念大磯邸園を始めとする近年の観光開発は大磯町の価値を高める素晴らしい事業だと思います。しかし最近の町の行政は外から人を呼ぶことばかりに目を向けて、町民のことを忘れていく気がします。立派な庭園や賑わい交流施設を作る予算があるのなら、小さな直売所1つ、運営の続行を認めていただけませんか。私たち町民にとっては見事な庭園やハコモノよりもずっと生活に密着した、かけがえのない場所です。どうか賢明なご判断をよろしくお願い申し上げます。</p>
町の考え方		
		<p>公共施設の再編については、今後、生産年齢人口の減少などによる税収の減少や、高齢化による扶助費の増大などにより行政運営が一層厳しさを増す中で、将来世代の負担をこれ以上増やさず適切な行政サービスを提供し続けるため、施設の更新問題等を踏まえ公共施設等の在り方や見直しを進めるものです。農産物直売所は、平成4年に整備され多くの農業従事者が組合を設置し、共同で運営が行われてきました。現在では、JA直売所をはじめ農家の庭先や、商店などで地場産の野菜などが販売されるようになっていきます。城山公園前の直売所については、町が維持管理を行う公共施設としては、施設の老朽化を踏まえ今後の更新等を考慮すると、行政サービスとしての設置の必要性は低いと判断し、施設の廃止について直売所を運営する組合と協議を進めています。なお、町内農産物の販売機会の提供については、多くの農業者が利用できるよう大磯港賑わい創出施設をはじめ販路確保に向けて調整を行ってまいります。</p>
番号	項目	意見
5	その他施設 [産業観光施設]	<p>城山公園入口前の野菜直売所が廃止されると出品する生産者に聞きました。長年利用してきました。新鮮な野菜を土日に購入することができることは利用者にとって大変価値の高いものです。生産者に聞いても廃止の理由等のいきさつを把握できていない様子でした。野菜を販売する施設があり、生産者とユーザーが納得する形で取引できている現状を変更するにはそれなりの事情説明と手順が必要だと思います。あるユーザーは直売所から西にはまとまった野菜を購入できる施設がなく、「困る」とのことです。ユーザーの意見や事情は把握されるべきです。是非とも直売所が存続する方向での策をとっていただきますようお願いいたします。</p>

町の考え方		
		<p>公共施設の再編については、今後、生産年齢人口の減少などによる税収の減少や、高齢化による扶助費の増大などにより行政運営が一層厳しさを増す中で、将来世代の負担をこれ以上増やさず適切な行政サービスを提供し続けるため、施設の更新問題等を踏まえ公共施設等の在り方や見直しを進めるものです。農産物直売所は、平成4年に整備され多くの農業従事者が組合を設置し、共同で運営が行われてきました。現在では、J A直売所をはじめ農家の庭先や、商店などで地場産の野菜などが販売されるようになっていきます。城山公園前の直売所については、町が維持管理を行う公共施設としては、施設の老朽化を踏まえ今後の更新等を考慮すると、行政サービスとしての設置の必要性は低いと判断し、施設の廃止について直売所を運営する組合と協議を進めています。なお、町内農産物の販売機会の提供については、多くの農業者が利用できるよう大磯港賑わい創出施設をはじめ販路確保に向けて調整を行ってまいります。</p>
番号	項目	意見
6	<p>その他施設 [産業観光施設]</p>	<p>農産物直売所の閉鎖について 城山公園傍にある直売所をよく利用しております。ところが、この直売所が閉鎖され、大磯コネクで野菜を販売することになるという連絡をもらいました。この変更が突然のことで驚いて、また残念至極に思い、意見を提出することにしました。大磯町には、あちこちに直売所があり、近隣の住人にとっては、徒歩や自転車で新鮮な農産物が買える便利な場所となっています。住人の平均年齢の高い大磯町にあって、身近で徒歩などで行ける直売所はありがたい存在です。また、産物を運ぶ生産者にとっても、そこでの反応などを見聞きしながら生産を続けることは、励ましにもなっていることと思います。それを、大手の会社の運営する販売所に移設するというのは、住人の住みやすさに関わる大事だと思います。これまで徒歩で行けていた人が、遠い大磯コネクに行けなくなります。また、仮に車を使える人がいたとしても、高いガソリンを使い、地球温暖化の二酸化炭素を排出して行かなければならないうえ、高い駐車料金を払わなければなりません。これは、SDGsに逆行するやり方ではないでしょうか。身近にある消費者と生産者が繋がれる直売所を活用の方が、地球にも住人にも良いやり方だと思います。こうした変更を利用者の意見も聞かずに突然行う事には反対です。ぜひ、今までの直売所を活用することを考えていただきたいと思います。</p>
町の考え方		
		<p>公共施設の再編については、今後、生産年齢人口の減少などによる税収の減少や、高齢化による扶助費の増大などにより行政運営が一層厳しさを増す中で、将来世代の負担をこれ以上増やさず適切な行政サービスを提供し続けるため、施設の更新問題等を踏まえ公共施設等の在り方や見直しを進めるものです。農産物直売所は、平成4年に整備され多くの農業従事者が組合を設置し、共同で運営が行われてきました。現在では、J A直売所をはじめ農家</p>

		<p>の庭先や、商店などで地場産の野菜などが販売されるようになっていいます。城山公園前の直売所については、町が維持管理を行う公共施設としては、施設の老朽化を踏まえ今後の更新等を考慮すると、行政サービスとしての設置の必要性は低いと判断し、施設の廃止について直売所を運営する組合と協議を進めています。なお、町内農産物の販売機会の提供については、多くの農業者が利用できるよう大磯港賑わい創出施設をはじめ販路確保に向けて調整を行ってまいります。</p>
番号	項目	意見
7	<p>その他施設 [産業観光施設]</p>	<p>P3 1 農産物直売所の個別計画、対策と説明について</p> <p>①農産物直売所の説明の見直しと客観的な説明要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明において「行政サービスの必要性が低い」とありますが、農産物直売所は、当町の大きな観光拠点の一つである旧吉田茂邸を含む大磯城山公園に直に隣接しており、観光客の歩行動線上に位置しており、大磯町産の農産物の宣伝効果や集客効果は立地上、極めて高いと言えます。 ・そのため、行政として本町の観光や農産物の普及機能を考慮すると廃止は大きな機会の損失であります。 ・また、副次的に、生鮮食品等を販売する商業施設の空白地帯と言える当地域の町民の日常の買い物の場、コミュニティの場となっていることから、これらの機能損失により、地域住民への影響は大きいと言えます。 ・以上のことから、「行政サービスの必要性が低い」の理由は論拠に乏しく、論考の取り下げをお願いしたい。 ・また、説明の見直しにあたっては、客観的な事実に基づいた全町を考慮したメリット・デメリットの説明、費用対効果を考慮した内容として頂きたい。 <p>②農産物直売所の「廃止」の取り下げ要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該施設の「廃止」計画は上記の通り、論拠に乏しく、極めて小規模な既存建物のインフラ維持のコスト（低コスト）と得られる機能や町のメリットを比較をした場合、「廃止」によるデメリットが大きいと考える。そのため、「廃止」を取り下げを頂きたい。
町の考え方		
<p>公共施設の再編については、今後、生産年齢人口の減少などによる税収の減少や、高齢化による扶助費の増大などにより行政運営が一層厳しさを増す中で、将来世代の負担をこれ以上増やさず適切な行政サービスを提供し続けるため、施設の更新問題等を踏まえ公共施設等の在り方や見直しを進めるものです。農産物直売所は、平成4年に整備され多くの農業従事者が組合を設置し、共同で運営が行われてきました。現在では、JA直売所をはじめ農家の庭先や、商店などで地場産の野菜などが販売されるようになっていいます。城山公園前の直売所については、町が維持管理を行う公共施設としては、施設の老朽化を踏まえ今後の更新等を考慮すると、行政サービスとしての設置の必要性は低いと判断し、施設の廃止について直売所を運営する組合と協議を進めています。なお、町内農産物の販売機会の提供については、多くの農業者が利</p>		

		用できるよう大磯港賑わい創出施設をはじめ販路確保に向けて調整を行ってまいります。
番号	項目	意見
8	子育て支援施設	国府保育園の説明のうち「在り方を検討していく」記述が今後の検討の第一歩となることに懸念をいだく。主語がないため、いかようにも進められるのではないか。
	保健福祉施設	ふれあい会館と福祉センターの対策の進め方については稼働率等も示し、町民参加で進めることが必要。そのことに言及する記述にしてほしい。でないと、計画に書いた通りに進めるとなると、行政と町民の間に圧れきが生じると考える。
	地域集会施設	地域集会施設の今後の協議においては、町内会の意向を無理のない形でまとめてもらうこと、また、求められた説明には十分対応し、財政状況に関しては町の状況、町内会にとってのメリット・デメリットも町の進めたい方向に持つていくための情報だけでなく、フェアに提供すること。以上（このままの文章でなくてよいので）の内容をどこかに記載されたい。
	社会教育・スポーツ施設	生涯学習館は集約化でなくなるのか。あるいは内容を変え、新たな施設になり得るのか。教育委員会の基本構想策定の前にこのような記載ができるのか不明。内容は改めるべきではないか。
	その他施設 [産業観光施設]	農産物直売所の廃止について、廃止を協議するとともに... 調整を行うとされるが、利用している町民の利便性についても考慮が必要と考える。（行政サービスの必要性は低い...と書かれているが）
		町の考え方
	子育て支援施設	記載のとおり、令和7年度からの第3期大磯町子ども笑顔かがやきプラン計画策定に向けて検討します。
	保健福祉施設	今後の計画推進に向けた考え方や取り組みの中で、ご指摘の内容は記述しています。
地域集会施設	町が所有している地域集会施設は20棟で、公共建築物全体の約22%となります。耐震化は図られているものの一部の施設は老朽化が進んでおり、今後、改修や建替に係る財源をすべて確保することは困難なことから、地域集会施設が地域の活動拠点として存続するため、今後の方向性として取組方針を財産移管又は統廃合としています。自治会への移管等に伴う課題については、協議中のため計画に記載はできませんが、引き続き区長連絡協議会と共有しながら、自治会活動が今後も継続して行えるように協議して引き続き区長連絡協議会と協議してまいります。	
社会教育・スポーツ施設	生涯学習館については、施設の貸出しを行う同様な施設との集約化を協議することとなっています。なお、社会教育施設については長寿命化計画に基づき整備方針を決定します。	
その他施設 [産業観光施設]	公共施設の再編については、今後、生産年齢人口の減少などによる税収の減少や、高齢化による扶助費の増大などにより行政運営が一層厳しさを増す中で、将来世代の負担をこれ以上増やさず適切な行政サービスを提供し続けるため、施設の更新問題等を踏まえ公共施設等の在り方や見直しを進めるものです。現在では、JA直売所をはじめ農家の庭先や、商店などで地場産の野菜などが販売されるようになっていきます。城山公園前の直売所について	

		<p>は、町が維持管理を行う公共施設としては、施設の老朽化を踏まえ今後の更新等を考慮すると、行政サービスとしての設置の必要性は低いと判断し、施設の廃止について直売所を運営する組合と協議を進めています。なお、町内農産物の販売機会の提供については、多くの農業者が利用できるよう大磯港賑わい創出施設をはじめ販路確保に向けて調整を行ってまいります。</p>
--	--	--